

# 3年後に年2万棟

## テクノックス地盤改良戦略

ル会  
パイ及  
アバ  
ピエ

テクノックスがJBSサポートと共同で2010年10月に設立したピュアパイル工法普及振興会（東京都墨田区）は27日、指定協力会社による同工法の施工実績が1000棟を突破したと発表した。3年後をめどに現在約1000台の施工機を240台に増やし、施工実績で年間2万棟を目指す



掘り起こしたピュアパイル

方針だ。

同工法は、支持地盤まで掘削したロッドを、セメントミ

ルクを排出しながら引き上げ

ること、掘削土砂と混ざらない純粹（ピュア）な柱状体（パイル）を築造する。掘削残土の排出がなく、固まるのも早い。地盤改良で7割のシェアを占める柱状改良工法に代わる技術として注目されている。

振興会には、フランチャイズ契約を結ぶ施工店50社が加盟し、北海道を除く全国展開の体制が整っている。ことし10月には日本建築総

合試験所から性能証明を取得し、開発時の目標レベルである杭長さ10層、延べ1500平方メートルの建物にも適用が可能となり、より幅広いニーズに対応できるようにした。

同日に開いた記者会見で、田中啓三振興会代表理事は「年間2万棟を施工するには施工店加盟数をさらに増やすとともに、240台もの施工機が必要になる」とし、15年度までに年50機のペースで追加していく方針を明かした。またテクノックスの12年度上期（4-9月）連結売上高は前年度比2・1%減の87億円で、主軸の地盤改良工事は33・4%増の57億円となった。

徳永克次社長は「戸建て分野の地盤改良は将来を見据えた当社の成長戦略に位置付けている」と強調する。自社で施工は行わず、工法のライセンス収入を見込んでおり、上期の売り上げは「地盤改良事業の数%でまだ1億円に満たない」（田中代表理事）という。